

『家族留学』

家族をひろげ、ひとりひとりを幸せに —特定非営利活動法人 manma—

若者から子育て家庭までのライフキャリアデザインを支援し続ける

2014年、当時の代表・新居日南恵さんが「5年後、安心して母親になれる社会をつくる」とスタートした学生団体 manma。株式会社そしてNPO 法人と経営形態を変えながら、若者向けにライフキャリアデザインを考える機会を提供してきました。これから結婚・子育てなどのライフイベントを迎える若い世代や、未就学児を持つ子育て家庭が、全国の子育て家庭を訪問することができる体験型プログラム『家族留学』を通して、これまで知らなかった子育てとキャリア形成の多様な在り方と出会い、ひとりひとりが望む生き方を選び、実現できる未来に向けて、支援し続けています。



01 家族留学とは

大学生～若手社会人までのプレママ・プレパパ世代・子育て家庭が、子育て家庭の1日に同行。子どもとの触れ合い体験 / 多様なロールモデルとの出会いを通して「結婚・子育て」と「働く」の両面から自身のライフキャリアと向き合います。

02 家族留学の実施パターンは

コロナ禍でオンライン版家族留学をスタートし、現在は参加者の希望に応じて対面実施 or オンライン実施を選べます。

03 家族留学のしくみ

manmaが仲介役となり、参加を希望する若者の要望に合わせて全国39都道府県にいる登録家庭(約470家庭)に、受け入れを打診しマッチングを行います。

これまでの家族留学参加者

最近結婚して子どもが欲しいと考えているけど、キャリアのことを考えると妊娠・出産のタイミングに不安を感じるというカップル

社会人になって働き始めてみて、職場に子育てをしている女性の先輩が少なく、キャリアを築きながら家庭を持つことに不安を抱える女性社会人

私は大学2年生の時に初めて家族留学を体験し、その後も大学卒業後や結婚といったタイミングで、何度か参加してきました。

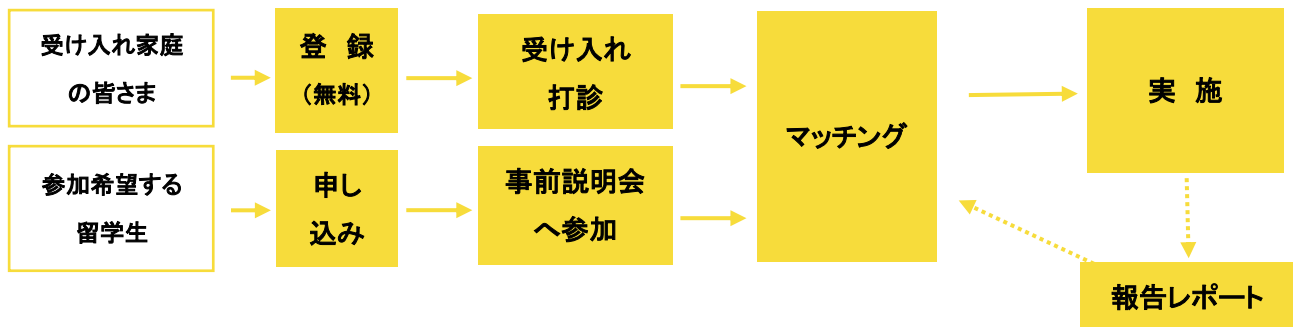
家族留学を通して出会った様々な子育て家庭のおかげで、キャリアや結婚、妊娠の選択で悩んだ時には、背中を押してくれる前向きなロールモデルを思い出し、ほしい未来を自分で決めることができました。

だからこそ、将来に対して漠然とした不安を抱える若者に、家族留学体験を通して、キャリア・結婚・子育ての多様な事例を届け、「私はこうありたい」という前向きな未来を選択できる支援をし続けたいと考えています。

代表理事 越智 未空



参加までの流れ



実施の様子



なぜ家族留学に登録しているの？

受け入れ家族

『家族留学』を受け入れることで、参加者や私たち家族にとっても良い変化があればと思います、登録することを決めました

- ・30代ご夫婦
- ・未就学児のお子様がお二人
- ・お父様が育休・時短勤務のご経験あり

受け入れ家族

シェアハウスで育児中。結婚・妊娠・出産をより身近に・よりフラットに考えるきっかけへという思いが『家族留学』と重なり登録しました

- ・20代ご夫婦
- ・未就学児のお子様がお二人

受け入れ家族

私たちも実際に育児をして初めて分かったことがあり、それを事前に知る機会が大切だと思い『家族留学』に登録しました

- ・30代ご夫婦
- ・未就学児のお子様がお二人
- ・どちらも育休・時短勤務のご経験あり

参加者申し込み & 受け入れ家庭申し込み登録はこちら

HP: <https://manma.co>

受け入れ家庭募集中

参加者の感想 & 受け入れ家庭の感想はこちら

https://note.com/official_manma/n/nfbdfdb22f4

絵本の森

夏休み、海に山に、子どもたちと一緒に出かけられる機会が増える時期ですね。そこで自然の美しさ、不思議さ、そして面白さを存分に感じられる写真絵本2冊を紹介します。身近な場所で、たくさんの発見があるかもしれませんよ。



ひがたはたからばこ 青いカニみつけた

写真・文：よしのゆうすけ
出版社：徳間書店
発行日：2022年7月
定価：1,870円（税込）

西表島の海べ、水がひくと、広いどろの地面があらわれます。「ひがた」です。ひがたのできる場所は、海になったり、陸になったり。どろばかりに見えるけど、よく見ていると……。40年以上海の生き物を撮り続けてきた海洋写真家が大自然の営みを紹介する好奇心が刺激される写真絵本です。



美しき小さな雑草の花図鑑

文：多田多恵子
写真：大作晃一
出版社：山と溪谷社
発行年：2018年2月
定価：1,760円（税込）

雑草がこんなにもきれいだったなんて……ページいっぱい拡大された数ミリから数センチの小さな雑草の花々を、ルーペで観察しているかのように楽しめるアートな雑草図鑑です。やさしく楽しい語り口が人気の植物学者多田多恵子先生が素敵な文章を添えて、身近な雑草約100種類を紹介してくれます。

夏休み

お手伝いを習慣に

突然ですが、お子さんにどのくらいお手伝いをさせているでしょうか。お手伝いしてほしいと思っても、素直にやってくれないから面倒くさくなって、自分でやってしまう。お手伝いしてくれるのはいいけれど、結局やり直さなければいけないから、自分でやってしまう。そんな声が聞こえてきそうですね。

さて、筆者は若者支援を行っていますが、立ち止まってしまって、学校や社会に自分の居場所を持っていない若者を支援していると、お手伝いの大切さを痛感します。



社会的に孤立している若者は、自分がいなくても社会は回っているという現実、自己否定の感情が強く、無力感に飲み込まれてしまいがちです。しかし、そうした若者のご家族と協力し、家の中で役割を持つことを話し合ってもらいます。風呂掃除や食後の食器洗い等、決まったお手伝いを行なってもらう、そして家族には毎日「ありがとう助かったわ」と伝えてもらいます。「別にそんなたいしたことしてないし」と本人が口にしても、毎日感謝の気持ちを伝えます。そうすることで、若者は自分が必要とされている、自分は役に立っているという気持ちが生まれ、親御さんに対しても感謝の気持ちが生まれ、社会に向けて一歩を踏み出す気持ちが生まれる時もあります。

どんな些細なことでも、家族の一員として家事の役割を持つ、そのことで子どもは自己肯定感を高めていきます。「お母さんもお父さんも大変だから、少し手伝ってほしいけれど、どんなことならできるかな？」そんな風に家族で、助け合うことを提案し、お手伝いを担ってもらうこと、この夏休みから始めませんか。